

常設展

文学の森へ 神奈川と作家たち

第1部 夏目漱石から萩原朔太郎まで

2025年12月6日(土) — 2026年1月25日(日)

第2部 芥川龍之介から中島敦まで

2026年1月31日(土) — 3月22日(日)

併設：コーナー展示 没後50年 平井呈一

2025年12月6日(土) — 2026年3月22日(日)

開館時間=9時30分～17時(入館は16時30分まで)

休館日=月曜日(1月12日、2月23日は開館)、12月28日(日)～2026年1月5日(月) / 展示休室=1月26日(月)～30日(金)

観覧料=一般260円(160円)、20歳未満及び学生160円(110円)、65歳以上110円(110円)、

高校生100円(100円)、中学生以下は無料 * ()内は20名以上の団体料金

編集委員=富岡幸一郎

主催=県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会 協賛=横浜高速鉄道、神奈川近代文学館を支援する会



かながわ
「昭和100年」
つながる心、ともに未来へ

横浜・山手 港の見える丘公園内 Kanagawa Museum of Modern Literature

県立神奈川近代文学館

〒231-0862 横浜市中区山手町110 TEL045-622-6666 <https://www.kanabun.or.jp>

東急東横線直通・みなとみらい線 元町・中華街駅 6番出口から徒歩10分

常設展「文学の森へ 神奈川と作家たち」

◎第1部：日本がさまざまな矛盾を抱えながらも、欧米をモデルに急速に近代化していった明治維新から関東大震災まで——この時代を代表する夏目漱石から萩原朔太郎まで、神奈川にゆかりのある14人の作家をとりあげます。〈夏目漱石、森鷗外、北村透谷、島崎藤村、国木田独步、与謝野晶子、泉鏡花、武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎、斎藤茂吉、高浜虚子、北原白秋、萩原朔太郎〉※森鷗外コーナーでは新収蔵資料「小紺珠」（創作ノート）などを展示します。

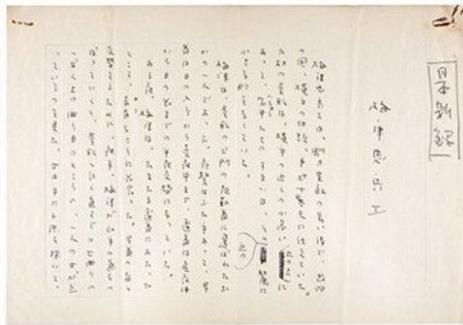
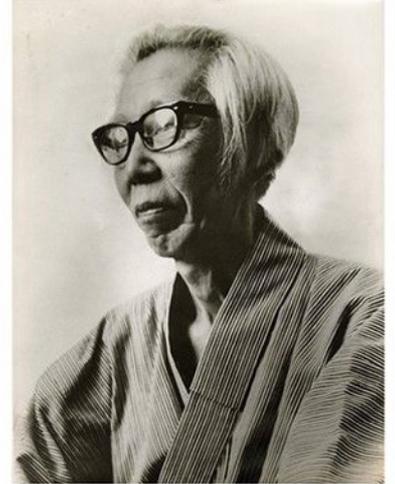
◎第2部：日本が軍国主義を推し進め世界と対立、ついには崩壊へと至る関東大震災から敗戦まで——芥川龍之介の衝撃的な死に始まるこの激動の時代、それぞれの生き方、文学の道を選んで活躍した中島敦まで13人の作家をとりあげます。〈芥川龍之介、横光利一、川端康成、永井荷風、谷崎潤一郎、岡本かの子、吉川英治、堀口大祐、西脇順三郎、中原中也、小林秀雄、堀辰雄、中島敦〉※小林秀雄コーナーでは戦後80年を記念して島木健作の「昭和二十年日記」を展示します。

コーナー展示 没後50年 平井呈一

小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）作品や英米の怪奇小説、推理小説の多くの名訳で知られる翻訳家・平井呈一（1902～1976／本名・程一）は2026年に没後50年を迎えます。呈一は1902年（明治35）、神奈川県程ヶ谷字神戸（現・横浜市保土ヶ谷区神戸町）で生まれ、生後間もなく日本橋浜町の商家へ養子に入り、江戸情緒が色濃く残る下町で育ちました。中学時代に小泉八雲の『怪談』を原書で読み、欧米の怪奇文学に関心を持ち、早稲田大学中退後は佐藤春夫に師事して、春夫の海外小説翻訳の下訳などを行っています。1934年（昭和9）に春夫の八雲作品邦訳に協力し、この時から小泉家との親交が始まりました。また春夫の伝で永井荷風を知り、荷風に師事して交遊を深めましたが、偽筆事件に関わって破門されています。

戦後は南房総に永く住み、オスカー・ワイルドやサッカーの翻訳、ミステリー作品を中心に英米文学の翻訳を多数発表。また、疎開中に新潟県小千谷町で教師として過ごした縁から恒文社の社長・池田恒雄と知り合い、呈一による『全訳小泉八雲作品集』全12巻を同社から出版するなど、外国文学の翻訳や紹介を通じて広くその名を知られました。

2005年、呈一の晩年に親交があった俳人・稲村藝花氏、弟子であった紀田順一郎元当館館長、荒俣宏元評議員らの尽力によって肉筆資料、遺品など200余点が当館へ寄贈されました。今回の展示ではこれらの資料を中心として、NHK朝の連続テレビ小説「ばけげん」で注目される小泉八雲の作品を多く翻訳し、その魅力を世にひろめた平井呈一の足跡を紹介します。

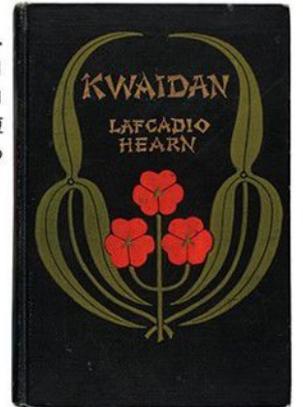


ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）作 呈一訳「梅津忠兵衛」原稿
原作は「A Japanese Miscellany (日本雑記)」(1901 Boston Little Brown&Co.)に収録。出羽国横手（現・秋田県横手市）の領主・戸村十太夫に仕える勇敢な若侍・梅津忠兵衛の不可思議な体験を描く短編。忠兵衛とその子孫が氏神から不思議な力を授かったという説話を題材としている。当館蔵・稲村藝花氏寄贈（以下*）



書「短夜や置屋にほそき裏ばしご」
実父が創業し、現在も上野で営業が続く菓子舗「うさぎや」の配り団扇に呈一が揮毫したもの。「短夜」は夏の季語。置屋にある裏階段を詠んだ一句。*

Lafcadio Hearn "Kwaidan"
1904 Boston Houghton, Mifflin & Co.
『怪談』の初版本。妻・セツが語った日本各地の怪談や伝説を再話し、八雲自身の視点で解釈を加え、珠玉の17の短編に仕上げた。後半にはエッセイ「虫の研究」3編が収められている。



※常設展はレプリカを中心に展示。コーナー展示はオリジナル資料を中心に展示します。

これからのイベント ※先着順で定員になり次第販売・受付を終了します。詳細はホームページ等でご確認ください。

- ・①②④=要事前申込。お電話（045-622-6666）またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・人数ほか必要事項をお知らせください。②は折り返し振込用紙をお送りします。
- ・③⑤=要チケット購入。チケットは、当館ミュージアムショップ（直接来館）、またはローソンチケット（Lコード）で販売。
- ・会場：①③④⑤=展示館2階ホール（①定員200名、③④⑤定員220名）、②=展示館2階中会議室（定員40名）

- ①かなぶん連句会「花咲く蕪村の巻」 2026年1月18日（日）13:30～ 選者：小島ゆかり（歌人）、辻原登（作家）、長谷川権（俳人） 参加無料 後援：「ウェブ望星」
- ②文学の教室「自分史を書くー〈私〉の原風景を訪ねてー」〈全4回〉 2月8日（日）、22日（日）、3月1日（日）、8日（日） 各日14:00～
講師：宮坂寛（国文学者） 料金：全4回一般5,000円（友の会会員4,000円）
- ③講演会「私の本について話そう『美か義か——日本人の再興』」(Lコード：33952) 2月14日（土）14:00～
講師：新保祐司（文芸批評家） 料金：一般1,000円（友の会会員800円）
- ④神奈川文化賞未来賞受賞記念講演会「ミステリーの先に見えるもの」 3月7日（土）14:00～ 講師：辻堂ゆめ（小説家） 入場無料 共催：神奈川県
- ⑤かなぶん寄席「笑門来福落語会」 3月22日（日）14:00～ **2026年1月17日（土）発売**
出演：金原亭馬生、古今亭菊春、金原亭馬治/金原亭駒ん奈（萩野アンナ）出演予定 料金：一般2,000円（友の会会員1,800円）

次回展示

特別展
生誕130年 吉屋信子展
シスターフッドの源流

2026年4月4日（土）～5月31日（日）

ACCESS

※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。
〈東急東横線直通・みなとみらい線〉
元町・中華街駅下車 6番出口（アメリカ山公園口）から徒歩10分
〈バス〉
・神奈川中央交通バス⑪系：桜木町駅～保土ヶ谷駅
・横浜市営バス⑩系：桜木町駅～山手駅
・観光スポット周遊バス「あかいくつ」
いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分
〈JR根岸線〉
石川町駅下車 元町口（南口）から徒歩20分

